※事例①、②のいずれのパターンもご作成ください。

ケース事例

事例①

性別 女児

年齢 4歳5ヶ月 保育園4歳児（入所は1歳児の時から）

心理判定 平均下精神発達

家族構成 父、母、兄（小学4年生）、本児

家庭状況

- ・ 両親はフルタイムで働いており、平日は仕事で忙しく、保育園は早朝から時間外（延長）保育を利用して預けている。
- ・ 土日祝は両親とも仕事は休みであり、土日は本児をスイミングスクールや幼児教室に通わせている。
- ・ 兄は中学校受験のため、週3日程度、学習塾に通っている。
- ・ 母は教育熱心であり、本児の言葉が遅いことを気にしているが、訓練的なことをすれば治ると思っている。

成育歴

- ・ 1歳児から保育園に入園。入園当初より人見知りもなく親和的で、誰にでも近付いていき、担任以外の保育士にも付いていく。この頃からよだれはよく出ていた。
- ・ 1歳半健診にて、言葉の遅れ、指差しについて指摘を受けるも経過観察になり、6か月後、2語文がかろうじて出ていたので、助言指導と「気になることがあれば相談してください」とのコメントを受け、終了になる。しかし、その後も言葉のバリエーションが増えない。
- ・ 3歳児健診にて、課題に取り組むことが難しく、言葉の理解も分かることと分からないことがあるが、心理相談では知的に遅れはないと判断されるとともに、対人関係も問題ない状況であったため、経過を観ることとなり、次は年長児期に相談することとなる。
- ・ その後も、依然として周りの子と比べて言葉数が少なかったり、家庭でも本児の言葉が不明瞭で何を言っているか分からないことが多く、大人が言っていることが理解できていないと思うことがある。
- ・ 身辺自立も確立が難しく、大人が手伝っている状況。
- ・ 母と保育園との間で相談の上、児童福祉センター発達相談課に相談があった。

支給量 7日

日常生活の様子

- ・ 口を閉じず、常によだれが出ているが、すする様子や自分でふくことはない。

運動発達

- ・ 手先が不器用で衣類の着脱に時間がかかる。ハサミの連続切りが難しい。食事はスプーン握り持ち、箸も握り持ちになるが、モデルを提示し、意識している間は三指持ちが可能。

- 言語（表出・理解）
- ・ 日常よく使う言葉や場面と合わせた言葉の理解はできている。
  - ・ 発音が不明瞭で聞き取りにくい。
  - ・ 全体的に言葉数が少なく、近くにいる大人の手等を引っ張って要求の対象物の前まで連れていく。
  - ・ 「○○してから○○します」など2つ以上の言葉になると、何を言われているかが分かっていない。

- あそび
- ・ 玩具は見える物に転々とし、注意が散漫で次から次へ物を出すので片付けができない。一つの玩具で遊びこむことは難しい。
  - ・ 外で追いかけっこをするのを好むが鬼ごっこのようにルールがあると続かない。
  - ・ 簡単なルールのゲームであれば理解できるが勝ち負けにこだわる。
  - ・ ままごとやブロックはパターンの的に操作することが多く、他児と役割を決めてのごっこ遊びには展開しない。

- 対人関係
- ・ 集団で行動することが苦手であり、集団あそびも自分からは参加しようとしめない
  - ・ 行動の理解が遅いことによるものなのか、いつも遅れて行動するが、担任から個別で伝えると、指示した行動について理解できる様子。
  - ・ 距離感が近く、初めての人にも抱きつきに行く。
  - ・ 特定の友だちを好み、その友だちのことを真似て遊んでいる。
  - ・ 共感や共同注視はあまりみられない。

発達評価 新版K式発達検査（2020）

生活年齢 4歳5ヶ月

	発達年齢	発達指数
姿勢・運動	—	—
認知・適応	3歳11ヶ月	87
言語・社会	3歳6ヶ月	78
全領域	3歳9ヶ月	83

< 所見 > 平均下精神発達

発達のバランス：アンバランスが目立ち、得意不得意の差が大きい。運動面の不器用さが目立ち、
 細かな作業は苦手。知識の定着は良いが、意図理解の弱さがある。

対人関係：人見知りなく、積極的に関わろうとする。

注意集中：各種検査には取り組めるが、検査道具を気にする姿が見られる。

その他：身辺自立の面で本児に苦手意識があり、消極的になり気力がない。

事例②

性別	男児
年齢	4歳7ヶ月 幼稚園4歳児（入所は3歳児から）
心理判定	平均下精神発達、自閉症スペクトラム疑い
家族構成	父、母、姉（小学6年生）、本児
家庭状況	- 父は会社員で平日は夜遅くまで仕事で帰宅も遅いが、土日は休みで子どもと公園に出かけたりしてコミュニケーションをとっている。 - 母は専業主婦で姉の学校や幼稚園で役員をされている。子育てにも積極的だが、子どもに合わせ過ぎ、本児の対応に振り回されているところがある。 - 姉は本児に優しく、本児の興味のある物に合わせて一緒に遊ぶ姿があるが、不登校で学校に通えていない。
成育歴	1歳半健診まで困ったことはなかったが、それ以降かんしゃくがひどく、自分の思い通りにならないと毎日のように30分～1時間程度泣き叫び、暴れることが続いていた。かんしゃくが治まった後に本児を母の膝に座らせ話をすると、落ち着いて話ができる。 - 言葉は2歳頃から流暢に話しているが、やや一方的で、こちらからの問いに応じることは少ない。 - 入園当初はクラスの部屋に入れなかったり、園舎をウロウロするなどの行動が見られていたが、秋頃から慣れてきて、不適切な行動をしている友だちに注意するなど過剰に適応している姿がある。しかし家庭では何に対してもまず「いやや」「ちがう」と言い、自分の思いを通そうと大声を出したり母を叩くこともある。 3歳児健診で相談し、児童福祉センター発達相談課で発達検査を受ける。知的に遅れがないことから、そこで紹介されたプレイセラピーの利用を始めるものの、母の不安は高く、療育を利用したい意向が強いため、再度、児童発達支援センターに相談し、発達相談課と連携の上、療育につながる。
支給量	5日
日常生活の様子 運動発達	- 身体を動かして遊ぶことはあまり好まず、外遊びでは虫探しをよくしている。 - L a Q（ラキュー）やブロック、折り紙などの手先を使う遊びも好きであるが、思うようにできず、すぐに諦めてしまう。 - 食事は箸を持てるが、手で食べていることが多い。
言語（表出・理解）	2歳頃からよく喋っており、自分の興味のある難しい言葉もたくさん知っている。こちらから話しかけると全く違う返答が返ってくることが多い。 - 人から何か要求されると必ず「いや」「ちがう」と言う。相手から言われていることは理解している。
あそび	外では虫探しに興味があり、蟻やダンゴムシなど色々な虫を見つけて捕ま

え集めている。

- ・ 図鑑が好きで一人で見ているのを好み、他児が来ると嫌がる。
- ・ ゲームの理解はできており、大人と一対一ではするが、友だち同士ではしようとしなない。

対人関係

- ・ 日常会話や他者とのコミュニケーションはとることができるが、かんしゃくを起こした際は、時間をかけて落ち着いた状態にならないと、コミュニケーションをとれない。
- ・ 不安が強いようで、初めての場所や初めてすることに対してかなりの緊張がある。そのような状況になると急に走り出したり、落ち着かなくなる。
- ・ 友だちのことを注意はするが、一緒に遊んだりすることは少ない。
- ・ 母としては、本児は幼稚園では自分の言いたいことが言えていないと感じている。

発達評価

新版K式発達検査（2020）

生活年齢 4歳7ヶ月

	発達年齢	発達指数
姿勢・運動	3歳9ヶ月	82
認知・適応	5歳1ヶ月	111
言語・社会	4歳4ヶ月	95
全領域	4歳7ヶ月	100

< 所見 > 平均下精神発達、自閉症スペクトラム疑い

発達のバランス：知的発達の遅れはないと思われるが、失敗しそうなこと（苦手なこと）には取り組もうとしない。運動面での不器用さがあり、ケンケンがアンバランスである。

対人関係：緊張と不安が強く、そういう時は気持ちが不安定になる。人から応じられても拒否する姿がある。無理強いせず、失敗しても大丈夫、やりたくなければ座って見学するなどの約束を決めておくことで安心できる。

注意集中：自信のないことは取り組もうとしない。本児ができそうなことを個別で対応し、成功体験を増やし、自信につなげると落ち着いて取り組むことができる。

その他：予想できない事に対しては不安が高く応じられない姿がある。